

第2部 エリアマネジメントのこれからの展望

| セッション2 : エリアマネジメントのすそ野を広げよう

~中小規模都市での取り組みを中心に~ |

コーディネーター：御手洗 潤氏／京都大学経営管理大学院 特定教授

パネリスト：足立 千佳子氏／NPO 法人とめタウンネット

河木 照雄氏／TCCM / 豊田シティーセンターマネジメント

原 拓也氏／NPO 法人 KAO の会

樋口 邦史氏／一般社団法人遠野みらい創りカレッジ

(御手洗潤氏 以下、御手洗) 本シンポジウムに共催の立場で参加させていただいております、京都大学経営管理大学院の御手洗と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のシンポジウムでこれまでにご登壇いただいた団体の皆様は、ほとんどが大都市の中心部で活動されています。

エリアマネジメントの現状として、大都市中心部の団体がエリアマネジメントを引っ張っていることは間違いのないと思います。しかしエリアマネジメントが「大都市の中心部の話である」、「地方都市には関係の無い話である」のかといえば、そうではないと思っています。

エリアマネジメントの定義は「地域における良好な環境や地域の価値を向上させるための住民・事業者・地権者などによる主体的な取り組み」です。その意味から考えると、エリアマネジメントというのは、地域の特性に応じた課題を地域の特性に応じて解決をし、地域の個性を際立たせていくことによって、地域の価値を上げていく取り組みだと思えます。

そのような取り組みであればそれは大都市だけのものではなく、多くの地域に当てはまるものです。このセッションでは、大都市中心部以外の、地方都市あるいは大都市の郊外部の住宅地、商業地、そして典型的なエリアマネジメントとは少し異なるところも含めた4名の方にご登壇いただいております。

まずは、エリアマネジメントが多様であるということをお知らせし、皆様にご紹介しながら、多様な中の共通性を見出していきたいと思えます。

そして次に、「エリアマネジメントを広げるにはどうするのか」、そして「全国エリアマネジメントネットワークの役割」について考えていきたいと思えます。

それでは、パネリストの皆様順番にそれぞれの取り組みをご紹介をしていただき、その中で、エリアマネジメントの取り組みを広げるのに苦労している点などを中心にお話しただけると幸いです。

2つの事業体の強力な連携による、まちの課題解決と生活サポートの実践

(足立 千佳子氏 以下、藤井) 皆様、こんにちは。宮城県登米市から来ました足立と申します。今日は登米市で活動している内容についてお話しさせていただきます。

宮城県登米市は、東京から仙台まで新幹線で大体 1 時間半、そこから高速バス。あるいは 1 時間に一本ある各駅停車の新幹線のくりこま高原駅まで行き、くりこま高原駅から車で 30 分くらいかかります。

仙台市から車では大体 1 時間半くらいかかる宮城県の一番北の平野部にあります。登米市は 9 つの町が合併してできた市で、旧迫町という場所に登米市役所があります。この旧迫町の登米市役所のある佐沼という大字に大網という地区があり、私たちはその大網地区で活動しております。

この大網地区の沿革ですが、イオンタウン佐沼が近郊にでき、段々と商店街が衰退し気付いたら商店がなくなっているという状況が 1990 年代後半から始まりました。

そこで 2000 年頃から、大網商工振興会として地域活性化に取り組みましたが、商店の衰退に歯止めが効きませんでした。

そこで今度は 2010 年頃から準備を始め、小回りがきき機動力のある体制を目指して有限会社コンテナおおあみとして事業が開始されました。その準備の途中で震災等もありましたので、設立当初とは若干方向性が変わってきていますが、当初の構想は、3 つの事業を柱に地域の活性化や賑わいづくりをするというもので、まずはライフサポート事業、インキュベーション事業、IT・コンテンツ事業の 3 つの活動が始まりました。

ライフサポート事業としては、コンテナエコというソーラーシステムの開発や、まちの便利屋さんというような活動がありました。まちの便利さんの活動から NPO 法人ハピふる Wedding という婚活事業、あるいはまちの課題を解決する NPO 法人とめタウンネットを設立させることも行っています。

IT・コンテンツ事業としては、パソコン教室や字幕サービスを行っており、字幕サービスに関連して東京大学の学生が設立する株式会社 Beautiful Ones のような起業支援も行っています。

これらと並行しておおあみ+ (プラス) プロジェクトというものも始まりました。このおおあみ+プロジェクトは、有限会社コンテナおおあみと私が所属している NPO 法人とめタウンネットの二本柱で活動をしています。

私たちの活動をコンテナおおあみと言っているのは、この二つの事業体がそれぞれ収益、非収益で活動をしているというように認識していただければいいかと思います。

プロジェクトの背景として、東日本大震災以降に宮城県沿岸地域の皆様が登米市にお住まいになられたことが挙げられます。

コンテナおおあみの隣の町内に南三陸町の最大規模の仮設住宅団地が建設されるなど、仮設住宅ができるまでの二次避難所あるいは南三陸町の仮設住宅が登米市に 5 か所でき、南三陸の方たちがお隣の住民になる状況が生まれております。

そして震災から 5 年が経過し、復興住宅や自力再建住宅等で仮設住宅からそのまま町内で暮らす方々もいらっしゃるということで、新しいコミュニティを創出する必要性が生まれ、私どもがおおあみ+プロジェクトを進めています。

おおあみ+プロジェクトはたくさんのプロジェクトをやっておりますが、代表的な例として本日は手仕事支援と居場所づくりについてご説明させていただきます。

手仕事支援は、仮設住宅の建設地である大網の隣の登米市南方、気仙沼大島、南三陸町の寄木、中瀬町といった地区の仮設住宅のお母さんたちに、「編んだもんだら」というアクリル 100%のエコたわしを編んでもらい全国に販売する活動をしています。

また居場所づくりとして、例えばアルテラスおおあみという施設を本格的に始動し、チャレンジショップなどを大規模にやっています。

(御手洗) 足立さん、ありがとうございます。震災で住民がたくさん増えたことから、従来のまちの課題の解決に加えて新しい課題に取り組んでいるという点では、きっかけは独特なのですが、株式会社と NPO 法人の二つの組織を軸に一つの街の課題に取り組むというスタイルは大丸有などとも似ており、そのような共通性もあることが面白く感じます。

「まちに人を引っ張り出す」ために豊田のまちなかで本気で遊び、広場をしっかりと使い倒す

(河木 照雄氏 以下、藤井) 愛知県豊田市の豊田シティーセンターマネジメントの河木です。どうぞよろしくお願いいたします。

私ども TCCM という組織は、平成 18 年の中活法の改正によって豊田市が中心市街地活性化基本計画を作成し、それが平成 20 年に認定され、その時作られた基本計画を誰が進めていくのかということから官民連携で立ち上げた組織です。

この組織は中心市街地活性化協議会の中にあり、行政、会議所、まちづくり会社、商業者等で作られています。本日はこの中の 4 つの事業について、エリアマネジメントとの関係等についてご説明をさせていただきます。

中心市街地活性化基本計画との関わりで行う事業は、中活事業やテナントミックス、空き店舗の活用などですが、その中で、公共空間・公共施設の活用が本日のテーマになるのかなと思います。

一つめの「まちなか宣伝会議」は、まちなかにある様々な施設の共同連携により、まちなかの賑わいの創出と魅力の発信を行うもので、特に特徴付けられるのが、豊田市さんがお持ちの集客施設、公共施設もメンバーに入っているということです。まちなかで行われる全ての事業をこの会議でプロモーションし、公共施設も含めて様々な施設が展開している事業を皆様方で共有し合う、そして共同企画の事業を展開していくことが目的になっています。月一回ずつ、必ず皆様方に参加していただき、様々な事業を共有する形で進めています。

次に、豊田市にある公開空地や道路を使い、官民連携で選定した管理者を置くことで、まちなか広場を上手に活用していこうという組織を今年から立ち上げました。これが、「あそべるとよたプロジェクト」で、豊田のまちなかで本気で遊び、広場をしっかりと使い倒すという考え方をもとに様々な事業を展開していく予定です。

街には多くの人がありますが、まちなかに出てきて何かをするという習慣がなく、まちなかになかなか出てこないということが問題です。豊田のまちには大企業があり、いつも何万人という人がまちなかを通っていくのですが、決してその人たちが街中に滞留しようとしません。

また住宅でまちなか居住を促進しているのですが、その人たちもまちなかに出てこようとしません。その人たちをどう引っ張りこむのかという仕掛けをこのプロジェクトとして展開しています。

加えて、公園と豊田市の美術館前広場という公共空間を使い、様々な事業者の方々に事業を展開していただき、一年半ほどマルシェ等を展開しています。毎月第三土曜日に開催している恒例の「STREET&PARK MARKET」というイベントですが、毎回約 60 店舗くらいの方が出店しています。

豊田市さんにはもちろん公園使用料をお支払いしていますが、各出店者からお金をいただくようになり、やっと今年の 4 月くらいから収益が上がるようになりました。この収益を使いながら、「MUSEUM MARKET」という豊田市美術館の広場を使って、その中の一事業で展開できるような仕組みを構築しています。

これらは将来、豊田のまちなかで商売をやってくれそうな人、仕事をしてくれそうな人たちの発掘の場としての狙いも持っています。

そして全国的に話題になっている「リノベーションによるまちづくり」も展開しており、遊休不動産、潜在的な地域資源を活用して、まちなかの住居・仕事以外のサードプレイスを作りたいという願いでやっています。

先ほど申し上げたように豊田のまちなかで仕事をしたいという人がいても、仕事のできる場をどのように見つけるかということが重要ですので、仕事のできる場を作ったりすることがこの事業の目的になっています。

まだ一つくらいしかできていませんが、パブリックマインドを持った大家さんに物件を一ついただき、この 7 月の内にオープンさせるつもりで頑張っています。

今後の課題についてですが、やはりどこの地区にもあるように、人材育成と人材発掘が大きな課題になっています。

もう一つは、どのような形で公民連携の組織を作っていくか、そしてマネジメントとして、継続できるような仕組みや考え方を確立して自立した体制を作ることが課題です。

また先ほどもお話しした通り、まちにいるたくさんの人たちをどうやってまちに引っ張り出すのか、どう動いてもらうのかというのが大きな課題であると思います。

そして実際のところ豊田市は税収のほとんどが法人市民税で、いくら投資して固定資産

税が上がってもその上り分は法人が頑張らないと消えてしまいます。しかしながらまちに投資し、稼ぎ、再投資し、また新しい人が投資するような仕組みを考え作っていかなくてはならないと思います。これが私どもの今持っている課題です。ご清聴ありがとうございました。

(御手洗) ありがとうございました。豊田は実は名古屋からローカル線で一時間というかなりの田舎で、そこで再開発や中活を頑張ってきたのですが、なかなかうまくいきませんでした。

そこで最近、公共空間や公開空地の利活用やサードプレイスの確保などを行っているのですが、多くの地区と共通した取り組みを地方都市でもやられているということのご紹介になったのではないかなと思います。

地域の価値を維持するためのマネジメント基盤の構築による一体的な管理運営の実践

(原 拓也氏 以下、藤井) NPO 法人 KAO の会の原と申します。よろしくお願ひいたします。本日は鎌ヶ谷という街の事例をご紹介します。

首都圏、東京から約 1 時間、東武野田線の鎌ヶ谷駅というところで、市施行の土地区画整理事業が行われました。そこで新しく生まれた鎌ヶ谷駅東口の駅前広場のまちづくりがそもそもの発端です。

私はいま NPO 法人 KAO の会の事務局長をしていますけれども、都市計画コンサルとしてここに関わったのが経緯です。市施行ですから、区画整理事務所長であった市の整備課長から、整備後のよい活用をしていただきたいということで、勉強会を手伝ってこないかというところから始まりました。

その勉強会に付けた名前が KAO の会であり、駅前の顔づくりや鎌ヶ谷の関係を作ってこうといった趣旨でした。

そこで一、二年議論した内容を、一冊にまとめて市長に提言したものが今のまちづくりの指針になっています。

デザインの協調や公共施設と民間施設とのデザインの統一、テナントミックスを駅前全体で考えようということに加え、当時は株式会社で考えていたのですが、空間を一体的に管理運営する組織を作ろうということ平成 11 年 9 月にまとめたのがきっかけです。

まち開きをして 6 年後、2006 年にはほぼ今の状態になり、周辺でいくつか開発をしていきました。再開発ではなく等価交換手法でビルを作っていたのですが、そのマネジメント基盤をどのようにつくったかという点について本日はお話しいたします。

つまり先行開発事業に仕組みを組み込むということです。最初の開発の時には匿名組合として不動産特定共同事業法を使いました。地元の個人地権者で組合を作り、個々の地権者とその匿名組合とで等価交換をし、その組合が売主となって分譲事業を行いました。

そしてその分譲利益を一部基金化した中で NPO 法が施行されたため NPO を作り、地権者

はその NPO の役員になるというようなスタイルをとりました。そして二段階目の開発を 6 年後に行いました。同じく等価交換手法を使い、収益事業床を得た地権者が新たな理事として NPO に加わりました。NPO が理事のアセットを管理していくというシンプルな構造です。

その一方で分譲マンションを一般に売っていきましたが、その分譲時にデベロッパーや販売会社に協力していただき、「景観維持費」としてマンション管理組合から NPO 法人へ各マンションが面する駅前広場の美観形成について業務委託するという手法を重要事項説明に加えてもらいました。

一世帯当たりになると大体 200 から 300 円くらいですが、管理組合ごとに月々の委託費を支払って頂いています。今は計三棟の分譲マンション管理組合から合わせて年間約 60 万円、それから毎年見積を出しながらの単年度契約ですが行政から駅前広場の植栽管理と歩道の清掃で業務委託を受けており、これが年間約 180 万円、25:75 の割合で収益となっています。

実践として管理体制、運営体制の見える化を行っています。KAO の会は最初に立ち上げたビルの 1 階に入っており実際に存在が見えるようにしています。また地元の自治会と商店街振興組合が任意組織を作り、そこの事務所としても使用しています。KAO の会だけでは組織が脆弱ですので、メンバーが沢山ここで集うような拠点づくりにもなっています。

官民連携の形態をまとめると、市施行ですので基盤整備事業は市がやったということになります。管理運営主体は NPO を民間で作りました。駅前広場の管理は鎌ヶ谷市からの委託と住民のマンション管理組合を通じた景観維持費としての委託、そして NPO 法人の運営費用自体はテナントの管理業務を地権者から受ける形で行っています。

そのテナント管理業務は、二棟の等価交換床の管理業務であり、年間約 770 万円になります。さらに周辺の駐車場を借りて貸すということも行っておりますので、約 800 万円の収入に対して人件費や事務所費などの運営コストがかかりますので、差額で約 100 万円、それから駅前管理業務だけだと委託費の 180 万円+60 万円に対して、シルバー人材の方々へ委託することで約 50 万円浮かしているのです、全体で約 150 万円を直接経費+納税予算としています。

地権者には、これまで 16 年間毎年説明を行っておりますが、KAO の会の場合は地価を一つの指標にしています。KAO の会が管理する駅前広場とちょうど反対側の西口の商店街とを比較すると、この 16 年間で平米当たり 4 万 5 千円ほどの差が出ています。

(御手洗) 原さん、ありがとうございました。大都市都心部周辺の住宅地のエリアマネジメントはあまり出てきていない地域だと思います。

しかし開発の中にどうやって最初からエリアマネジメントを織り込んでいくのかという視点や、地価に着目しながら地域の価値をどうやって維持していくのかという点は他の地域と共通性があると思います。

地域ストックとネットワークの活用による、新たな教育環境創出と「まち経営」基盤の構築

(樋口 邦史氏 以下、藤井) 樋口と申します。「地域社会の未来をひらく「場」の創出」ということでお話いたします。現在、遠野みらい創りカレッジという活動を行っており、企業としては富士ゼロックスという会社で復興支援を行っています。

まずはその関係で遠野市に行った経緯からご紹介したいと思います。富士ゼロックスは2011年3月の震災を機に復興推進という組織を立ち上げました。

まず盛岡に拠点を構え沿岸被災地、特に釜石を中心に被災をしたクリニックの皆さんに複合機を提供するといった支援を始めました。

一方、盛岡から釜石に向かう間に通る遠野市で後方支援という点に着目して研究を進めました。その結果、釜石、久慈という医療圏で在宅医療を進めるサービスを作り上げることができるといふ成果が得られると共に、遠野でのみらい創り活動というものを始めたのが、今回の報告の内容です。

2014年4月8日、当時遠野市は8校あった中学校を3校に集約する少子高齢化への対応を行政として行っていました。そこで交流人口を増やしながら、少しでも地域の未来になる活動と一緒に取り組んでもらうという「みらい創り」という活動として、中学校を利用した「ふれあうように学ぶ場」というコンセプトを作ることに成功いたしました。

まだまだ使える非常に綺麗な中学校で、企業が開発の種を見つけ、大学が地域の研究を行い、行政が新しいサービスを見つけ出す場として今は使われています。

地域の皆様はここに新しい教育環境ができたということで非常に喜んでおり、平成26年は約4,000名、平成27年度は約5,000名の方々に来ていただいております。

学ぶ場ということで、交流・暮らし文化・産業創造のカテゴリーで主に7つの項目のプログラムを地域の方たちと共に作りました。

地域のリーダーを講師として招聘するもの、地域のリーダーを発掘・育成して第三セクターの皆様を巻き込むもの、そして地域のリーダーをプロジェクトマネージャーとしてプロジェクトを推進するものを実施してきました。

ここでは地域のリーダーの育成と登用に主眼を置いたプログラムを実施しているところが注目するところかと思えます。しかし、富士ゼロックスという会社が永遠に居続けるわけにもいかず、地域に定着していかなければいけないということで、今回、一般社団法人化をして、遠野みらい創りカレッジを運営することになりました。

基本姿勢は、法人は広く世の中に「触れあうように学ぶ場」として学ぶ場を提供することです。行政にはシンクタンクの機能として様々な相談事に対するお答えの機能を提供する、そして作り上げたプログラムを基に、公益事業として参加者にプログラムを通じた人材育成のサービスを提供するというので、この一つの機能と一つの事業でカレッジを運営しています。事業計画については、遠野市と富士ゼロックスが連携協定を結んで実施しています。

富士ゼロックスはプログラムの開発をしながら私のような人材を提供し、この地域に居続けながら地域の発展を目指してマネジメントを実施していきます。このような関係を作り、協力企業からも様々な見識をこの取り組みに入れることに成功しています。

まとめとして、エリアマネジメントとの関連として我々が考えている地域創生のポイントをご紹介しますと思います。

やはり行政とコミュニティ、企業と大学というのはなかなか一緒に足並みを揃えることができませんので、遠野みらい創りカレッジはステークホルダーが同じ目線で、同じ共通価値を得られるための場としての役割を果たしているといえます。

行政はまちづくりの経営をしたい、企業は研究開発をしたい、コミュニティは地域活性化をしたい、大学は学生に様々な体験をさせ研究の種としたい、これらを一緒になって研究できる場としての機能だと考えています。

最後に、我々がマネジメントをして得られた気付きについて、新しいマネジメントの登場という観点でご紹介します。

従来のパラダイムはおそらく競争戦略というマネジメントでしたが、我々が考えている共通価値を提供するマネジメントは、公正な場で総意を形成し、皆で実践しながら共同作業するマネジメントだと考えています。

企業では実際には企画部門の人が働きますが、このカレッジでは実践的なプロデューサーやコミュニティと一緒に働くコーディネーターが出てきます。Social Capital を活かし、Shared Value を得ながら進めることで、“Contactivity” と私たちが呼ぶような、常に企業が自治体あるいはコミュニティ組織の中に繋がりが続けるという関係が生まれます。

私たちは新市場を「共創」しながら、“Create the Future” という戦略の下、このみらい創りカレッジをあらゆる人たちとの学びの場として考えています。

また次は、相模湾で何かがあった時のための南足柄市、東海道、南海トラフの後方支援拠点としての地域を特定しながら、みらい創りカレッジのマネジメントを広げていきたいと考えています。ご清聴ありがとうございました。

(御手洗) 樋口さん、ありがとうございました。遠野みらい創りカレッジは特定のエリアの課題に事業として取り組んでいるわけではないという意味では、我々が知っているエリアマネジメントとは少し異なるかもしれません。

しかし人材育成と場づくりに特化している裏で、地域の課題を解決することが根底にあり、とりわけ交流人口を増やす、産業を育成する、あるいは市場を作るなどの課題は、地方部では共通した課題だと思います。この課題に対してカレッジという手法が非常に独特であるということなのだと思います。

エリアマネジメントのすそ野を広げるために出来ること、やるべきこととは

(御手洗) それでは次に、2つの議論をしたいと思います。「様々な地域でエリアマネジ

メントを広げるにはどうしたらいいのか」、そして「全国エリアマネジメントネットワークに期待することは何か」です。この2つについて、4人の方からあらかじめキーワードをいただいていますので、そのキーワードをお一人ずつお話しいただければと思います。

(足立) 私たちが思うエリアマネジメントを各地に広げるために重要なことは、「地域オリジナルのヒト・コト・カネの発掘」だと思っています。

登米市のコンテナおおあみの場合は、地域課題の解決のために様々な行動を起こしました。それを基に登米でできること、身の丈に合ったことは何だろうということで多くのプロジェクトや場作りを行い、それをコミュニティビジネスにつなげてきました。

次のエリアマネジメントネットワークへの期待・参画する抱負に繋がりますが、そのようなコミュニティビジネス、起業支援のような形がエリアマネジメントに繋がるということは、御手洗先生に現場を見ていただきご指導いただいています。

まだこれは本当にエリアマネジメントになっていくのだろうかという不安もありますが、様々な方法があつていいのだと思っています。

大都市ならでのこと、私たちのような少し寂れてしまったようなところ、あるいは被災地のような問題を抱えているところなどそれぞれに違いがありますが、認め合い互いに底上げし合えるような関係やそのようなご指導をネットワークの皆様にしていただけると大変幸いかなと思っています。

(河木) エリアマネジメントを広げるにあたって重要なことは、内部ネットワークを活かして人を見つける、人を作るということが大事なことです。 「交わる」というキーワードは絶対にあると思います。

その時にどのような精神が必要かという点、”Civic Pride” というものをしっかり持った人たちに参加していただくことが必要じゃないかと思書かせていただきました。

そして期待することは、先ほど申し上げました投資して稼いで再投資し、また新しい人たちが投資してくれる、そのような環境を作るためにこのネットワークを使って様々なところのベンチマークを繰り返しながら、我々のエリアマネジメントの質を上げていきたいということです。よろしく願いいたします。

(原) KAOの会は個人の土地活用を軸にしているので土地というキーワードが出てくるのですが、説明可能な客観的データをどのようにあげるのかということ地権者と一緒に頑張ってきたつもりです。

日々やっていることは、街を綺麗にすることや賑わいをつくる、あるいは子どもたちのためのことで、それらがしっかりくっついているということを共有するとことを大切にしています。

「その幸福感は土地に付着する」という表現を好んで使っています。そしてこのネット

ワークには、まずここにお集まりの皆様ぜひ KAO の会みたいなお場をベンチマークしていただき、我々が気付かないようなことを情報交換していただく、それに加えて制度、政策の提言力に期待します。

(樋口) 広い意味で場を創るときに忘れてはいけないこととして、地域の皆様の総意を必ず得るための手続きがあるということ、そして作り上げた場があればいいという話ではなく、やっているプログラム等を論理的にも技術的にも裏打ちされたものとして作って運営していくということが重要ではないかと思います。

そして我々もこのネットワークに参画するとすれば、地方だけではなかなか解決できない問題について大都市の企業の皆様、学生の皆様と連携しながら解決していく手法が一般的なものになるように取り組んでいますので、ここにお集まりの皆様や、首都圏、大都会の皆様と一緒に交流人口を増やす活動の連携、交流ができればなと考えております。

地域を愛し、地域の多様性を認識し、認め合うことがエリアマネジメントには重要

(御手洗) 本日、2つのテーマを掲げました。一つ目のテーマは「エリアマネジメントを各地に広げるにあたって重要なこと」で、いただいた4つのキーワードを私なりにまとめると、ひとつは地域を愛することによって、地域や土地のオリジナリティー、個性を探して育てその結果価値を上げていくことが、エリアマネジメントにあたって重要だということが結論付けられるのだと思います。

そしてもう一つは、地域の活動の担い手探しなど、場合によっては地域外や官の方々も含めて多くの人と交わり共通意識を広げていく。この2つをポイントとして、地域創生が出来上がるのだと思います。

そしてもう一つのテーマである「全国エリアマネジメントネットワークへの期待」です。4人の方々からいただいたキーワードを私なりに総括すると、まずはネットワークという名前の通り、連携、情報交換、交流、学び合いが基本的に期待されることだと思います。

そしてその先に、制度提言・提案といったところまで持っていくことが期待されていると思います。

何より大事なのは、このような活動を進めることで、エリアマネジメントの多様性を認識し、認め合い、互いの良さを活かしながら一緒になって活動していく。それによって地方と大都会など様々なものがシナジー効果を生み出していくことが大事だと思います。

皆様に申し上げたいのは、連携、政策提案をするにはネットワークを広げるということが非常に重要であるということです。

そしてこの全国エリアマネジメントネットワークはぜひ多様性を認識し、認め合うような組織にしていきたいと思います。

エリアマネジメントを様々なところでやっている方、あるいはいま私たちがやっていることはエリアマネジメントなのだろうかというような方まで含めて、民間の力で地域を活

性化していこうということを考えている方はぜひ我々と一緒にやっていただきたいと思います。

全国エリアマネジメントネットワークは本日が初めての総会でした。ここに初めて参加した方もたくさんおられますし、これから新しく参加する方もいると思います。そのような方も含めて、全国エリアマネジメントネットワークは皆様の手で作上げていくものです。

最後に、みんなで全国エリアマネジメントネットワークを盛り上げていきたいと思います。4人の皆様、ありがとうございました。